

自力式弁

減圧タイプ V182、V82

リリーフタイプ V185

背圧タイプ V186

取扱説明書



目次

(ページ)

1. 弊社製品の保証内容について	1
2. 取扱い使用上の注意	2
3. 運搬・開梱・保管の注意	2
4. 各部品の名称	3
5. 製品の機能及び仕様	5
6. 最高許容圧力と温度の関係	6
7. 作動特性	7
減圧タイプ	7
リリーフタイプ/背圧タイプ	8
8. 取付方法	9
フランジ形	10
ねじ込み形	11
ソケット形	12
9. 作動圧力の調整方法	13
10. 部品交換のための分解方法	14
11. 点検項目	15
12. 不具合の原因と処置方法	16
13. 残材・廃材の処理方法	16

本取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用いただくための重要な事柄について記載しています。
 なお、お読みになられた後は、お使いになる方がいつでも見ることが出来る場所に必ず保管ください。

【表示マーク】

＜警告・注意表示＞

	取扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負うことが想定される内容」です。
	取扱いを誤った場合、「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容」です。

＜禁止・強制表示＞

	製品の取扱いにおいて、「行ってはいけない内容」で禁止します。
	製品の取扱いにおいて、「必ず行っていただく内容」で強制します。

1. 弊社製品の保証内容について

- ・弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願い致します。
- ・弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体または財産を侵害する恐れのある設備等へご使用される場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書等の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承願います。
- ・弊社製品の選定、施工・据付、操作、メンテナンス等の注意事項は技術資料、取扱説明書等に記載しておりますので、最寄りの販売店・弊社営業所へお問い合わせください。
- ・弊社製品の保証期間は納入後1年間とし、保証期間中に不具合が生じ、弊社に通知された場合は直ちに原因究明を行い、弊社製品に欠陥が発見された場合には弊社の責任でその製品を修理・交換致します。
- ・保証期間経過後の修理・交換は有償となります。
- ・ただし、次に該当する場合は保証の対象外と致します。
 - (1)ご使用条件が弊社の定義する保証範囲を超えている場合。
 - (2)施工・据付、取扱い、メンテナンス等において、弊社の定義する注意事項等※が守られていない場合。
 - (3)不具合の原因が弊社製品以外の場合。
 - (4)弊社以外による製品の改造・二次加工による場合。
 - (5)部品をその製品の本来の使い方以外にご使用された場合。
 - (6)天災・災害等の弊社製品以外の原因による場合。
- ※ なお、弊社製品の不具合により誘発される損害については、保証の対象外と致します。
- ・この保証は弊社製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外で使用される場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

2. 取扱い使用上の注意



警告

・弊社樹脂製配管材料に陽圧の気体を使用される場合は、水圧と同値であっても圧縮性流体特有の反発力により、危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆するなど、周辺への安全対策を必ず施して使用してください。なおご不明な点は、お手数ですが弊社窓口へお問い合わせください。配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合、水圧で確認してください。止むを得ず気体で試験を行う場合、最寄りの営業所へ事前にご相談ください。



注意

・バルブに乗ったり重量物を載せたりしないでください。(破損する恐れがあります)

・火気や高温な物体に接近させないでください。(変形や破損、火災の恐れがあります)



注意

・使用温度及び使用圧力は、許容範囲内で使用してください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です。許容範囲外で使用されますと、バルブが破損する恐れがあります)

・スラリーを含んだ流体は、自力式弁には不適です。(バルブが正常に作動しなくなります)

・保守点検が出来るスペースは十分確保してください。

・適切な材質を選定して使用してください。(薬液の種類によって部品が侵され、破損する恐れがあります。詳細については最寄りの営業所へ事前にご相談ください)

・流体に結晶性物質を含んでいる場合は、再結晶しない条件で使用してください。(バルブが正常に作動しなくなります)

・常時、水や粉じんなどが飛び散る場所、及び直射日光のあたる場所は避けるか、または全体を覆うカバーなどを設けてください。(バルブが正常に作動しなくなります)

・定期的なメンテナンスを行ってください。(長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化により、漏れが発生する場合があります)

3. 運搬・開梱・保管の注意



警告

・バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊り荷の下に立たないでください。



注意

・投げ出しや落下、打撃などによる衝撃を与えないでください。(損傷や破損の恐れがあります)

・鋭利な物体(ナイフや手かぎなど)で引っかきや突き刺しなどをしないでください。

・ダンボール梱包は、荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。

・コールトール、クレオソート(木材用防腐剤)、白あり駆除剤、殺虫剤、塗料などに接触させないでください。(膨潤により破損する恐れがあります)

・バルブを運搬する場合、ハンドル掛けはしないでください。

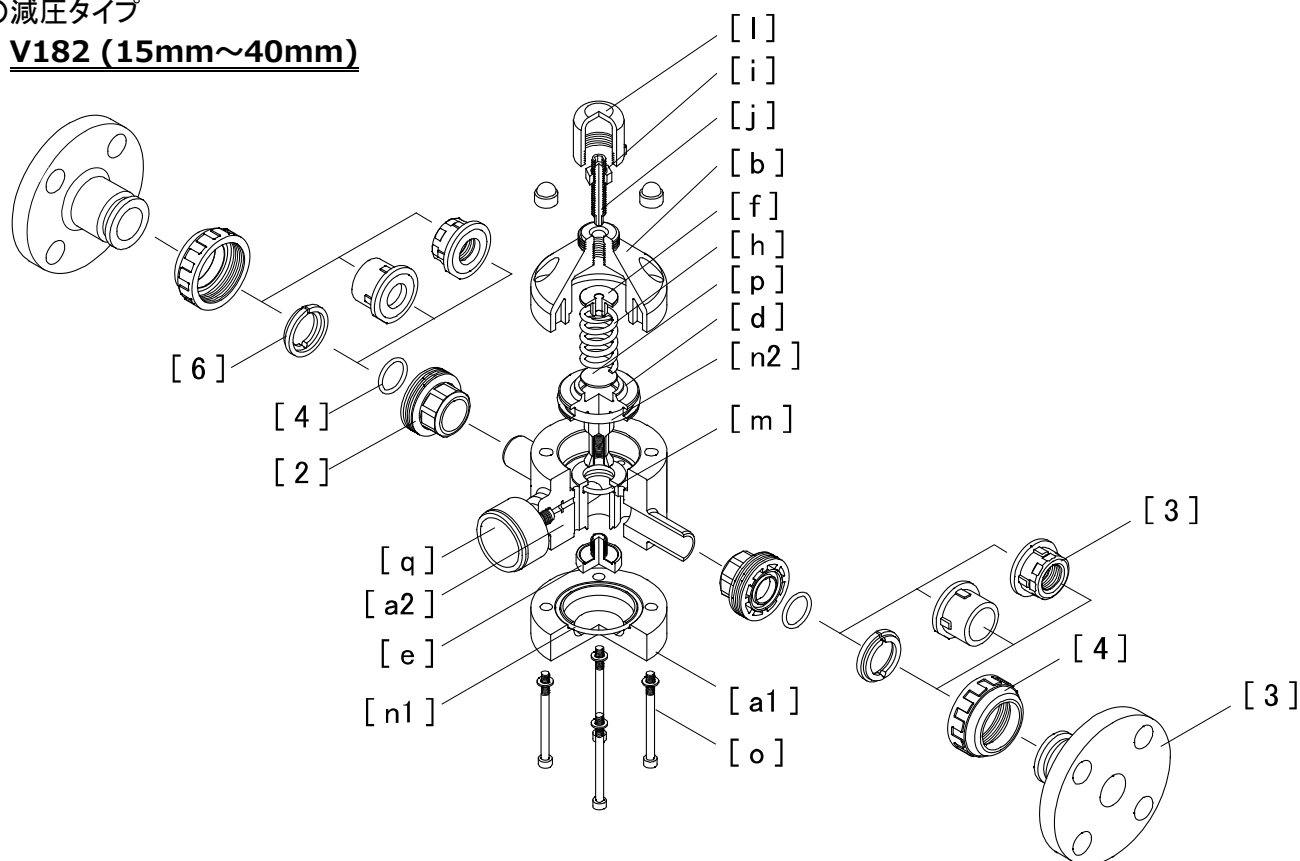
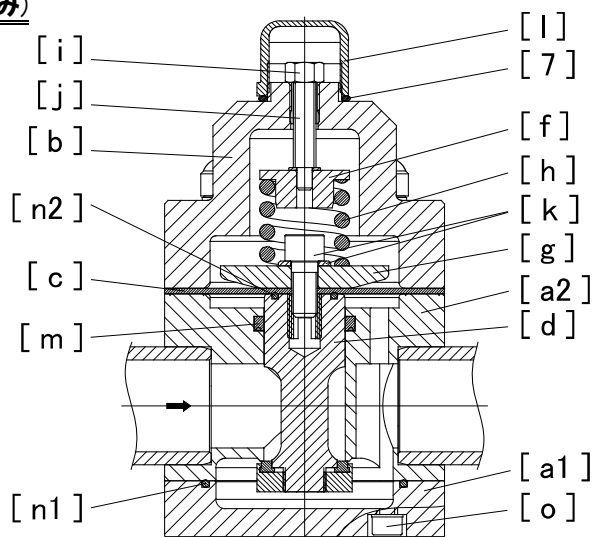


・配管直前までダンボールに入れたまま、直射日光を避け、屋内(室温)で保管してください。また、高温になる場所での保管も避けてください。(ダンボール梱包は水などに濡れると強度が低下します。保管や取扱いには十分注意してください)

・開梱後、製品に異常がないか、仕様と合致しているかを確認してください。

4. 各部品の名 称

○減圧タイプ

V182 (15mm~40mm)

V82 (50mm ; PTFE 仕様のみ)


No.	名 称	No.	名 称	No.	名 称	No.	名 称
[a1]	ボディ(下)	[g]	コンプレッサー※ ¹	[n1]	O リング(A)	[4]	キャップナット
[a2]	ボディ(上)	[h]	圧縮バネ	[n2]	O リング(B)	[5]	O リング(C)
[b]	ハウジング	[i]	ロックナット	[o]	ボルト	[6]	ストップリング※ ⁴
[c]	ダイヤフラム※ ¹	[j]	調整ネジ	[p]	スプリングサポートプレート※ ²	[7]	O リング(D)
[d]	ピストン	[k]	ボルト、ワッシャ※ ¹	[q]	圧力計		
[e]	ピストンベース※ ²	[l]	キャップ	[2]	PJ ボディ※ ³		
[f]	スプリングプレート	[m]	リングシール	[3]	ボディキャップ		

(注記) ※1;V82 に使用

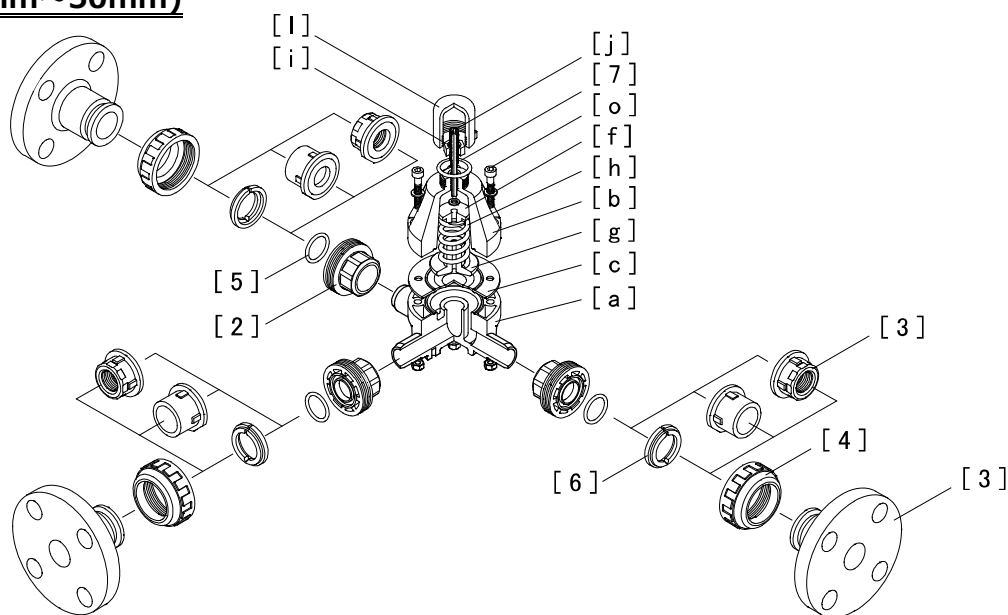
※2;V182 に使用

※3;自力式弁専用

※4;フランジ形に使用

○リリーフタイプ

V185 (15mm~50mm)



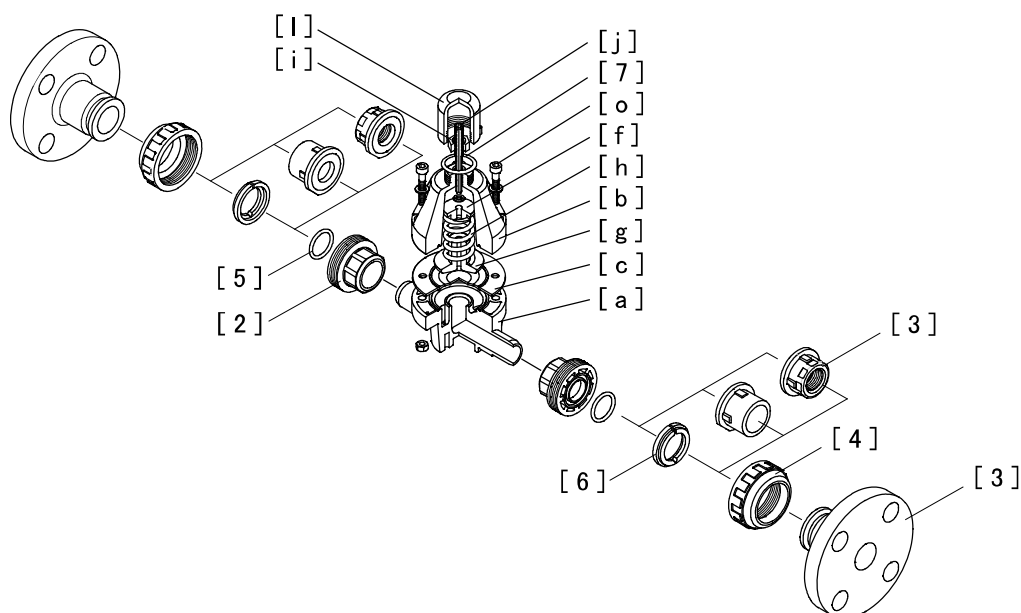
No.	名 称	No.	名 称	No.	名 称	No.	名 称
[a]	ボディ	[g]	コンプレッサー	[i]	キャップ	[4]	キャップナット
[b]	ハウジング	[h]	圧縮バネ	[o]	ボルト、ワッシャ、ナット	[5]	O リング (C)
[c]	ダイヤフラム	[i]	ロックナット	[2]	PJ ボディ※ ¹	[6]	ストップリング※ ²
[f]	スプリングプレート	[j]	調整ネジ	[3]	ボディキャップ	[7]	O リング (D)

(注記) ※1; 自力式弁専用

※2; フランジ形に使用

○背圧タイプ

V186 (15mm~50mm)



No.	名 称	No.	名 称	No.	名 称	No.	名 称
[a]	ボディ	[g]	コンプレッサー	[i]	キャップ	[4]	キャップナット
[b]	ハウジング	[h]	圧縮バネ	[o]	ボルト、ワッシャ、ナット	[5]	O リング (C)
[c]	ダイヤフラム	[i]	ロックナット	[2]	PJ ボディ※ ¹	[6]	ストップリング※ ²
[f]	スプリングプレート	[j]	調整ネジ	[3]	ボディキャップ	[7]	O リング (D)

(注記) ※1; 自力式弁専用

※2; フランジ形に使用

5. 製品の機能及び仕様

機能

- 減圧タイプ(V182/V82)は、一次側の圧力変動が発生しても、二次側の圧力を一定に維持する働きをします。補助動力を用いずに流体圧力のみを利用して作動し、流体がピストンまたはダイヤフラムを押し上げる力に対して、圧縮バネの力でピストンを押し下げることによって平衡を保ちます。
- リリーフタイプ(V185)は、圧力の超過を防ぐ必要のある配管ラインや装置に使用します。バルブは3方向に流体が流れる“T字型”で、左右一直線上(水平方向)の出入口に加え、側面(直角方向)に吐出し口を設けています。水平方向の圧力が設定圧力を超えるとバルブが開き、流体が直角方向にある吐出し口から排出されます。この圧力分散と閉止の動作が水平方向の圧力を一定保持して、ピーク圧を抑えます。
- 背圧タイプ(V186)は、一次側圧力を一定に維持します。一次側圧力が設定圧力を超えるとバルブが開き、設定圧力以下になると閉じます。補助動力を使わずに流体の圧力を利用して作動し、流体がダイヤフラムを押し上げる力に対して、圧縮バネの力でダイヤフラムを押し下げることによって平衡を保ちます。

仕様

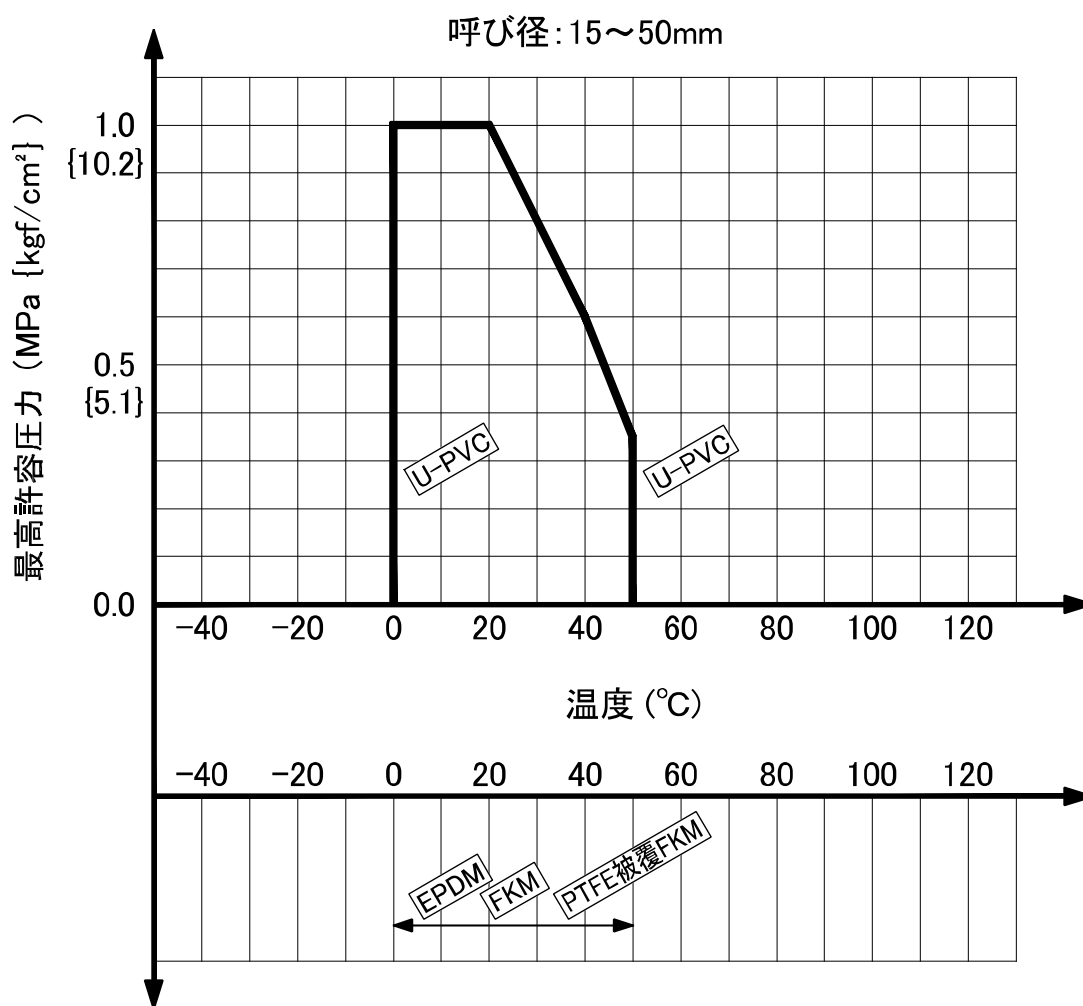
	減圧タイプ		リリーフタイプ	背圧タイプ
型式	V182	V82	V185	V186
呼び径	15～40mm	50mm	15～50mm	15～50mm
ゴム材質	EPDM、FKM	PTFE 被覆 FKM※2	EPDM、PTFE 被覆 FKM※2	
ボディ材質	PVC			
接続規格-方式	JIS10K フランジ、JIS ソケット、Rc ねじ			
最高許容圧力(20℃時)※1	1.0MPa			
使用温度範囲	0～50℃			
圧力調整範囲	0.1～0.9MPa			

※1; 温度別許容圧力は、『6. 最高許容圧力と温度の関係』の項を参照ください。

※2; PTFE 被覆 FKM の場合、O リング材質は、FKM を使用します。

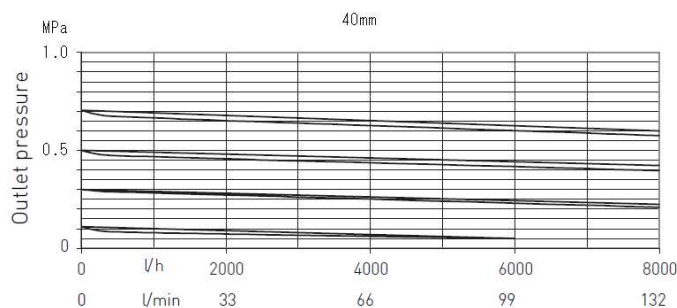
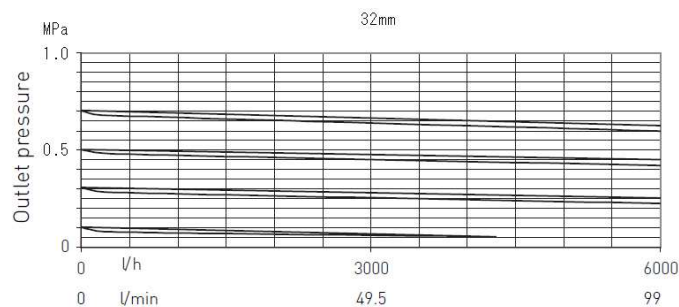
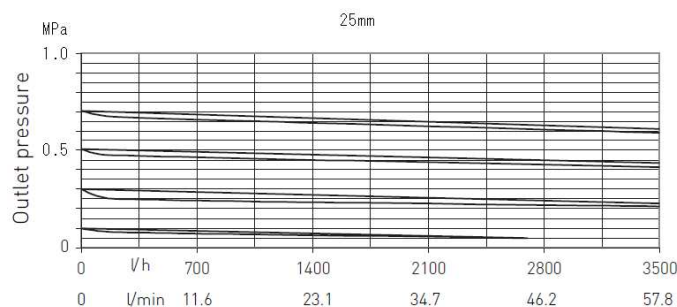
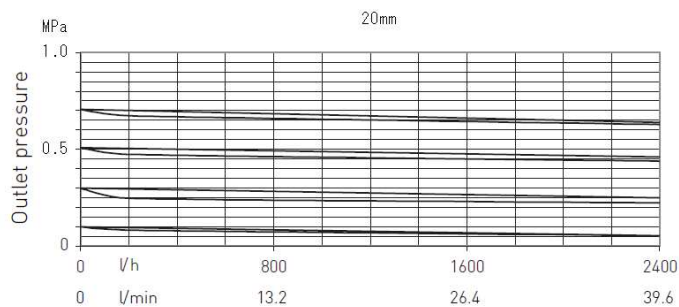
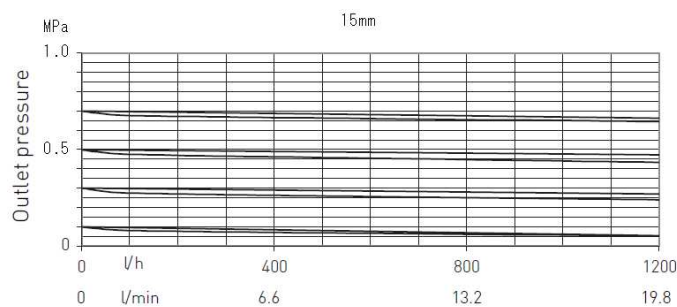
6. 最高許容圧力と温度の関係

○減圧タイプ、リリーフタイプ、背圧タイプ

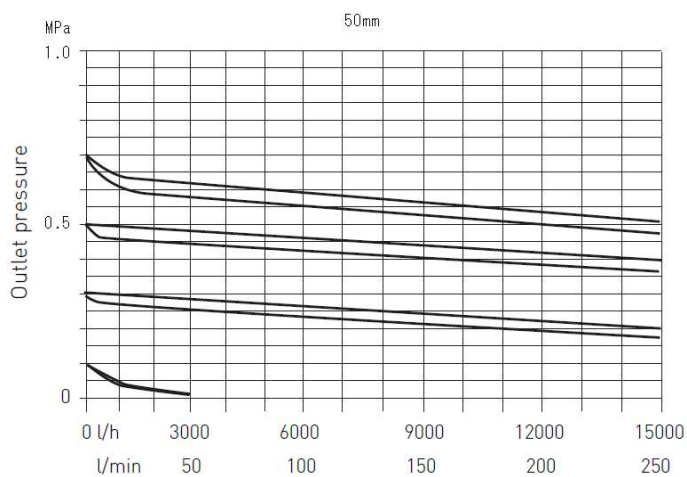


7. 作動特性

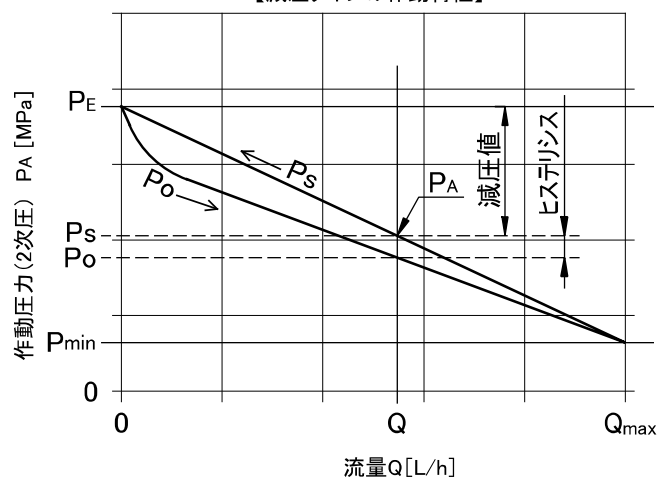
○減圧タイプ (V182)



○減圧タイプ (V82)



【減圧タイプの作動特性】



◇ 流量の増加とともに、バルブを通過する際の圧力損失が増えて、2次側の圧が低下していきます。

P_E : 流体が流れていないときの設定圧力

$P_E - P_{min}$: 最大減圧値

・流体を流していない状態で作動圧力を P_E に設定した場合、流量 Q を流したときに2次圧は P_o まで低下します。

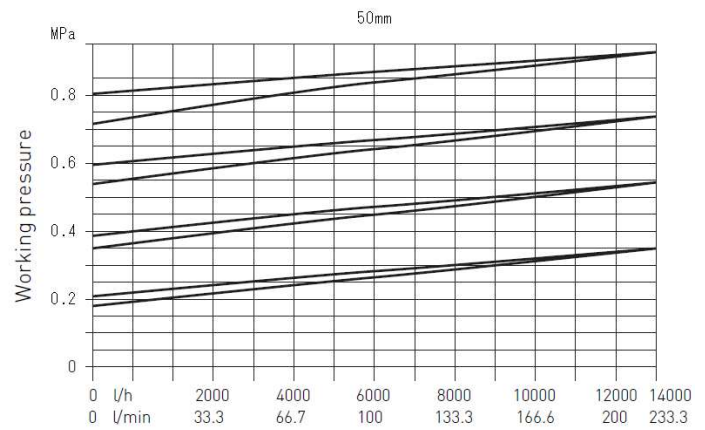
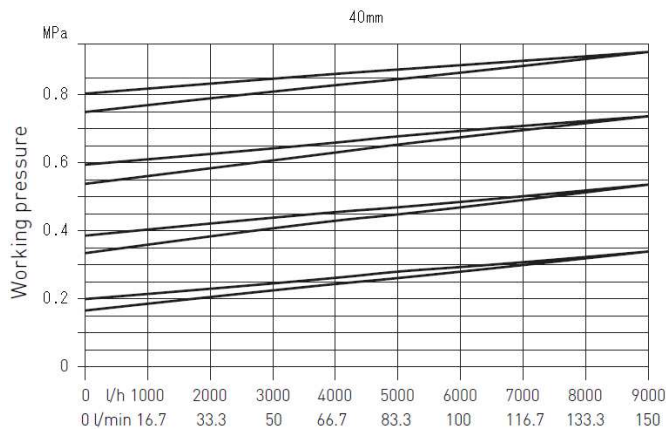
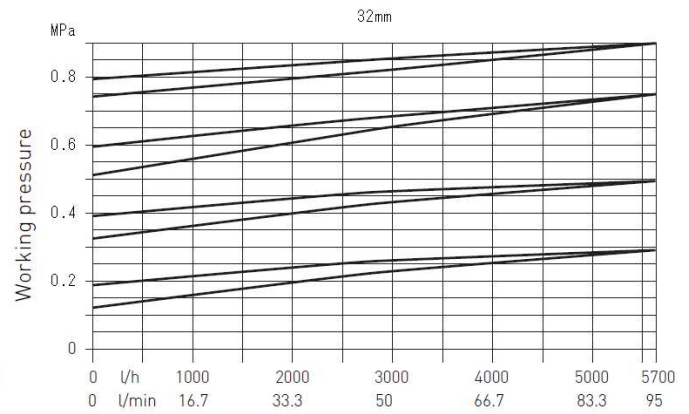
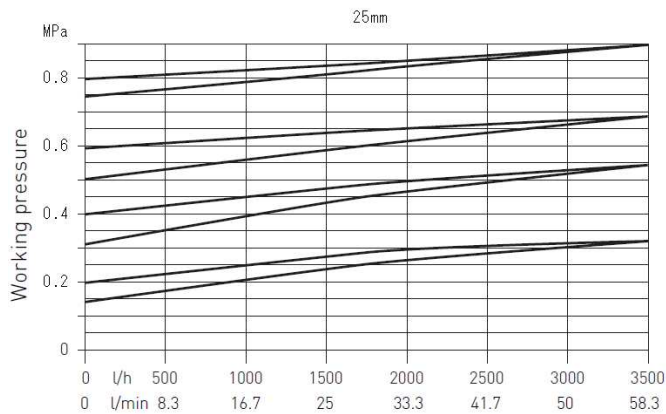
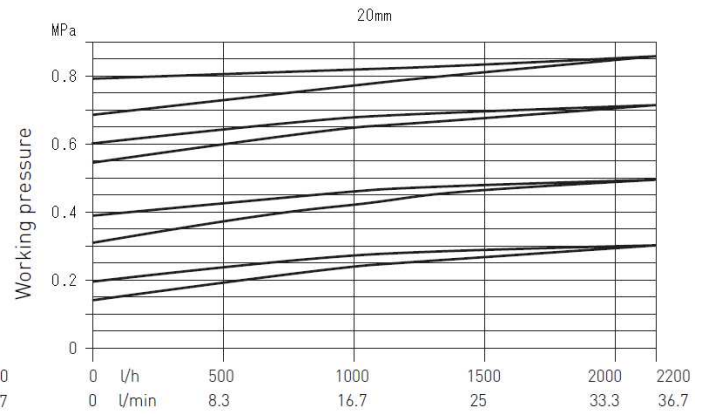
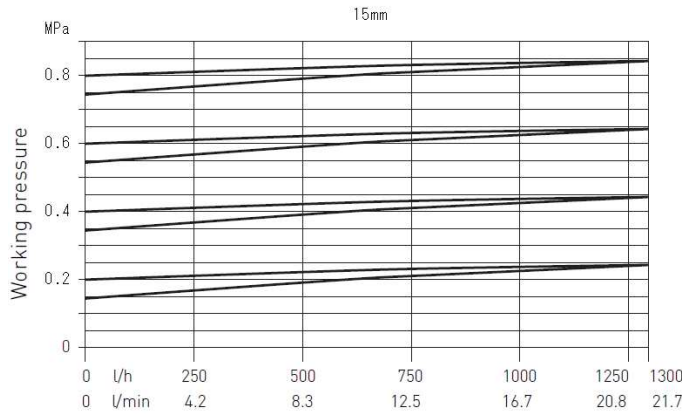
P_o 線 : 流量を0からMAXまで上げていったときの圧力変化を示します。

P_s 線 : 流量をMAXから0まで下げていったときの圧力変化を示します。

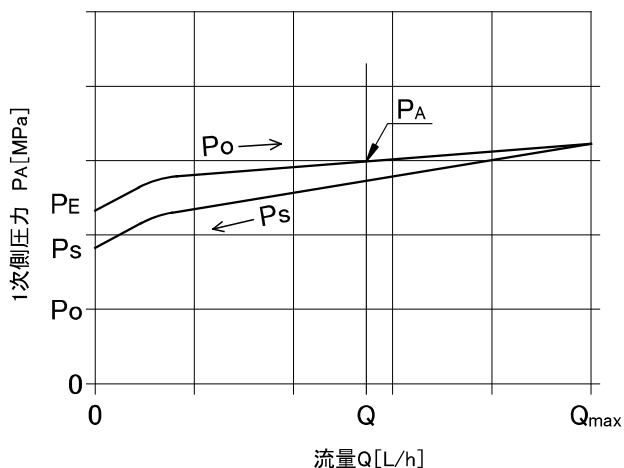
ヒステリシス : バルブ内の圧縮バネ、ピストン(またはダイヤフラム)の影響により、流量が増減する際に圧力差が生じます。

・流量が変動すると P_o と P_s 線の間で圧力が変動します。

・ P_s 線にある P_A が実際の作動圧力となります。



【リリーフタイプ／背圧タイプの作動特性】



◇流量の増加とともに、バルブを通過する際の圧力損失が増えて、1次側の圧が上昇していきます。

P_E : 流体が流れていないときの設定圧力

P_A : 作動圧力(流れているときの圧力)

P_S : 流れを0にしたときの圧力

- ・ 流体を流していない状態で設定圧力を P_E にした場合、流量 Q を流したときに1次圧は P_A まで上昇します。

P_O 線 : 流量を0からMAXまで上げていったときの圧力変化を示します。

P_S 線 : 流量をMAXから0まで下げていったときの圧力変化を示します。

- ・ 流量が変動すると、 P_O と P_S 線の間で圧力が変動します。
- ・ P_O 線上にある P_A が、実際の作動圧力となります。

8. 取付方法



警告

・バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊り荷の下に立たないでください。



・使用する機械工具及び電動工具は、始業前に必ず安全点検を行ってください。

・配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。

(ケガをする恐れがあります)



注意

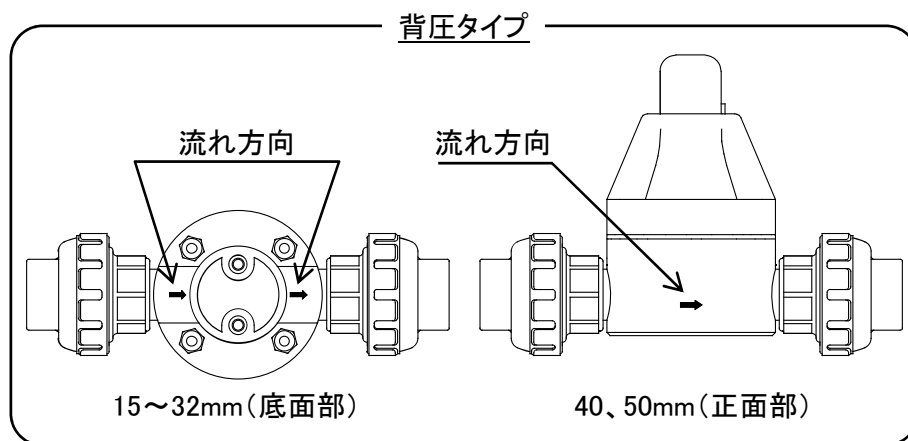
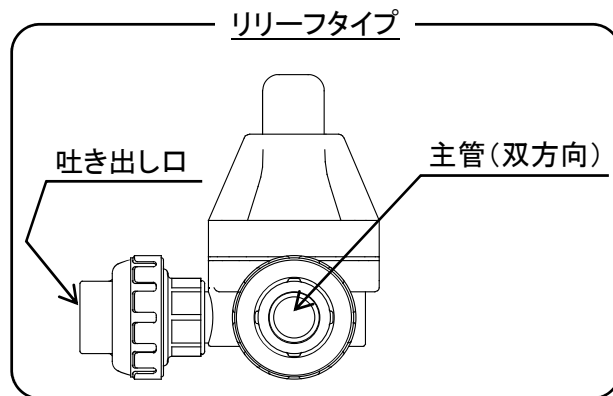
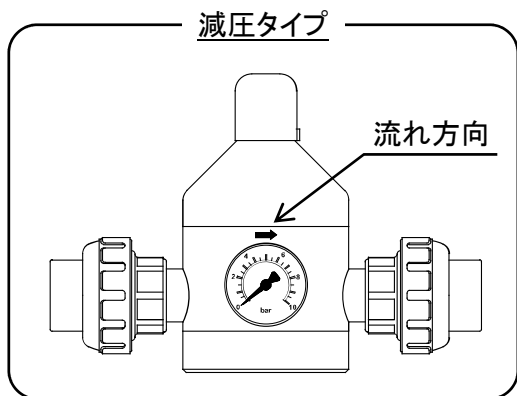
・Uバンドなどで配管サポートを取られる際は、締め過ぎに注意してください。(破損します)

・キャップナットを締め過ぎないでください。(破損する恐れがあります)

・キャップナットを締める際は、パイプレンチを使用しないでください。(破損する恐れがあります)



・流れ方向に注意して配管してください。(表示ラベルの矢印に流れ方向を合わせてください)



・流体内に異物がある場合は、本バルブの手前にストレーナを設けてください。

(作動不良の原因になります)

・取付けの際は、配管及びバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。

・通水試験前は、必ずキャップナットが十分に締まっているかを確認してください。

・軸芯ズレや面間寸法に注意して、キャップナットを締め付けてください。

・金属配管へ樹脂バルブを接続する際は、樹脂バルブに配管応力が加わらないように注意してください。



注意

- ・接続フランジは、全面座のものを使用してください。
- ・相互フランジ規格に違いがないことを確認してください。
- ・必ずシール用ガスケット(AV パッキン)、ボルト、ナット、ワッシャを使用し、所定の締め付トルク値で締め付けてください。(AV パッキン以外の場合は締め付トルク値が変わります)

準備するもの

- トルクレンチ
- AV パッキン

手順

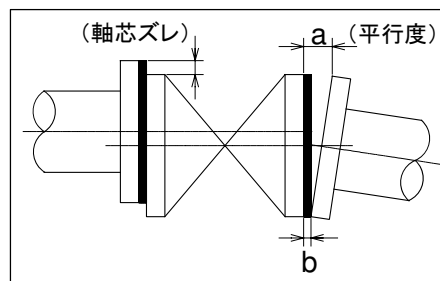
- 1) フランジ間にパッキンをセットします。
- 2) 連結フランジ側からワッシャとボルトを入れ、バルブ側からワッシャとナットを入れて、手による仮締めを行います。



注意

- ・フランジ面の平行度と軸芯ズレの寸法は、下記の数値以下にしてください。
(配管に応力が加わり、破損する恐れがあります)

呼び径 (mm)	軸芯ズレ	平行度 (a-b)
15~32	1.0mm	0.5mm
40, 50	1.0mm	0.8mm



- 3) 徐々に規定トルク値まで対角線状にトルクレンチで締め付けます。
- 4) 時計回りに規定トルク値で 2 周以上締め付けます。



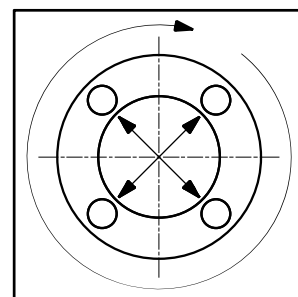
注意

- ・規定トルク値以上で締め付けしないでください。(漏れや破損する恐れがあります)

規定トルク値

単位: N・m {kgf・cm}

呼び径 (mm)	15	20	25	32	40	50
PTFE 被覆	17.5	17.5	20.0	20.0	20.0	22.5
PVDF 被覆	{179}	{179}	{204}	{204}	{204}	{250}
ラバー	8.0	8.0	20.0	20.0	20.0	22.5
	{82}	{82}	{204}	{204}	{204}	{250}



※キャップナットをゆるめたり取り外した場合は、以下の方法で装着してください。

- 5) O リング (C) [5] が正しく装着されていることを確認します。
- 6) ボディ側にボディキャップ [3] とキャップナット [4] を、O リング (C) [5] が外れないように接触させます。
- 7) キャップナット [4] を手できつくなるまで締め付けます。
- 8) キャップナット [4] を傷付けないように、ベルトレンチで 1/4 ~ 1/2 回転ねじ込みます。



注意



・接合部のねじは締め過ぎないでください。(破損する恐れがあります)

・必ずボディキャップを取り外してから施工してください。(この製品のキャップナットは、配管施工時にゆるめやすいように軽く締付けています)

・接合部のねじが樹脂製であることを確かめてください。

(金属ねじとの配管ではボディキャップが破損する恐れがあります)

・弊社樹脂配管材料のねじ接合部には、シーлтテープを使用してください。液状シーлт剤及び液状ガスケットを使用した場合、ストレスクラック(環境応力割れ)を起こす可能性があります。

準備するもの

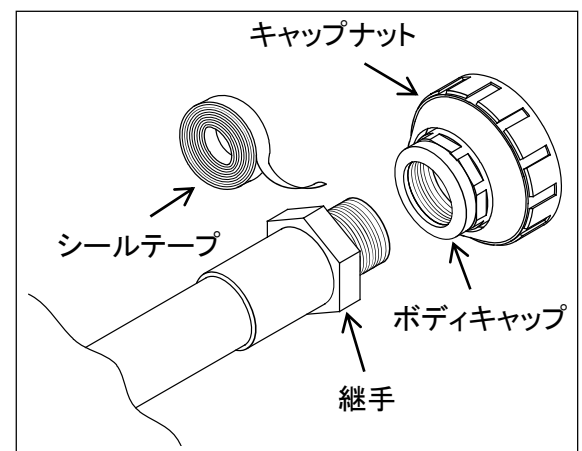
● シールテープ

● ベルトレンチ

● スパナ

手順

- 1) 継手のおねじにシーлтテープを先端約 3mm 残して巻き付けます。
- 2) ベルトレンチでキャップナット[4]をゆるめます。
- 3) キャップナット[4]ボディキャップ[3]を外します。
- 4) 継手のおねじとボディキャップ[3]を手できつくなるまで締め付けます。
- 5) 傷付けないようにボディキャップ[3]をスパナで 1/2 ～1 回転ねじ込みます。
- 6) O リング(C) [5]が正しく装着されているのを確認します。
- 7) ボディ側にボディキャップ[3]とキャップナット[4]を、O リング(C) [5]が外れないように接触させます。
- 8) キャップナット[4]を手できつくなるまで締め付けます。
- 9) キャップナット[4]を傷付けないように、ベルトレンチで 1/4 ～1/2 回転ねじ込みます。





警告

・接着剤を使用するときは換気を十分に行い、周囲での火気の使用を禁止するとともに、直接臭気を吸わないでください。



・接着剤が皮膚に付着したときは、速やかに落としてください。また気分が悪くなったり、異常を感じたときは、速やかに医師の診断を受け、適切な処置をしてください。



注意

・パイプが破損する恐れがあるため、叩き込みによる挿入は絶対にしないでください。



注意

・低温下での施工は、溶剤蒸気が蒸発しにくく残存しやすくなるので、注意してください。
(ソルベントクラックが発生し破損する恐れがあります)

配管後は、管の両端を開放するとともに、送風機(低圧仕様のもの)などで通風することにより、溶剤蒸気を除去してください。



・必ずボディキャップを取り外してから施工してください。(この製品のキャップナットは、配管施工時にゆるめやすいように軽く締め付けています)

・接着剤はアサヒ AV 接着剤を使用してください。(材質に応じたアサヒ AV 接着剤を選定してください)

・通水試験は接着完了後 24 時間以上経過してから行ってください。

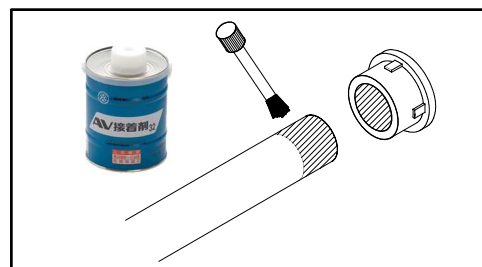
準備するもの

● アサヒ AV 接着剤

● ベルトレンチ

手順

- 1) ベルトレンチでキャップナット[4]をゆるめます。
- 2) キャップナット[4]とボディキャップ[3]を外します。
- 3) キャップナット[4]をパイプ側へ通します。
- 4) ボディキャップ[3]の受口部をウエスできれいに拭き取ります。
- 5) ボディキャップ[3]受口部及びパイプ差口に接着剤を均一に塗布します。



注意



・接着剤の塗り過ぎに注意してください。

(バルブ内に接着剤が流れ込むと作動不良または内部漏れの原因となる恐れがあります。
また、ソルベントクラックが発生し、破損する恐れがあります)

接着剤使用量(目安)

呼び径(mm)	15	20	25	32	40	50
使用量(g)	1.0	1.3	2.0	2.4	3.5	4.8

- 6) 接着剤塗布後、すばやくパイプをボディキャップ[3]へ差し込み、そのまま 60 秒以上保持します。
- 7) はみ出した接着剤を拭き取ります。
- 8) O リング(C) [5] が正しく装着されていることを確認します。
- 9) ボディ側にボディキャップ[3] とキャップナット[4] を O リング(C) [5] が外れないように接触させます。
- 10) キャップナット[4]を手できつくなるまで締め付けます。
- 11) キャップナット[4]を傷付けないように、ベルトレンチで 1/4 ～1/2 回転ねじ込みます。

9. 作動圧力の調整方法



注意



- ・ロックナットは確実に締め付けてください。
(ロックナットの締め付けトルクが弱いと調整ネジがゆるむ恐れがあります)
- ・調整ネジは、反時計方向に回し続けるとネジが外れてしまいますので、外れない範囲で操作してください。

準備するもの

- スパナ
- 六角レンチ

手順

- 1) ハウジング[b]の上部に取り付けられているキャップ[i]を反時計方向に回して取り外します。
- 2) ロックナット[i]をスパナでゆるめます。
- 3) 調整ネジ[j]を六角レンチで回転させ、圧力を調整します。なお、減圧タイプ(V182、V82)には圧力ゲージが付いていますので、ゲージで確認しながら調整することができます。
時計回り … 作動圧力が上昇します。
反時計回り … 作動圧力が下降します。
- 4) 作動圧力の調整が終わりましたら、調整ネジ[j]を六角レンチで固定し、ロックナット[i]をスパナで締め付けます。
- 5) キャップ[i]を元の位置に取り付けます。
キャップ[i]がOリング(D)[7]に触れてから1/4回転締め込みます。

10. 部品交換のための分解方法



・製品の取替えや部品交換の際には、配管内の流体を完全に抜いてください。



・配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。
(ケガをする恐れがあります)

・バルブ内のバネの圧縮を完全にゆるめるために、調整ネジを十分にゆるめておいてください。

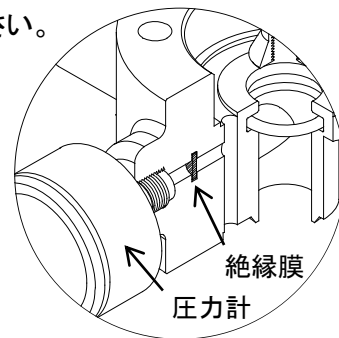
(バネを圧縮した状態で分解を行うとケガをする恐れがあります)



・減圧タイプの圧力計は取り外さないでください。

絶縁膜と圧力計の間に封止している圧力伝播用の液体が外部に漏れ出て、圧力計が使用不可となります。

・ボディ部を分解するためのソケットレンチは、型式やサイズによっては専用治具(別売品)が必要です。詳しくは最寄りの営業所までご相談ください。



準備するもの

- 保護眼鏡
- 保護手袋
- スパナ
- 六角レンチ
- ソケットレンチ
- 専用治具(特殊ソケットレンチ; 別売品)

減圧タイプ(V182)

分解手順

- 1) ハウジング[b]上部のキャップ[i]を取り外します。
- 2) ロックナット[i]をスパナでゆるめ、調整ネジ[j]を六角レンチで十分にゆるめておきます。
- 3) ボルト[o]を六角レンチとソケットレンチなどでゆるめて、ボディ(上)[a2]と(下)[a1]を取り外します。
- 4) 圧縮バネ[h]とスプリングプレート[f]を取り外します。
- 5) ピストンベース[e]を反時計回りに回転させて取り外します。
- 6) ボディ(上)[a2]の下部よりピストン[d]を押し上げて、ピストン[d]を取り外します。

組立手順

- 1) 分解手順の逆の順序で組立を行います。(組立前に O リング類にシリコングリスを塗布してください)
- 2) 組立後は、「9.作動圧力の調整方法」にしたがって作動圧力を調整してください。

減圧タイプ(V82)

分解手順

- 1) ハウジング[b]上部のキャップ[i]を取り外します。
- 2) ロックナット[i]をスパナでゆるめ、調整ネジ[j]を六角レンチで十分にゆるめておきます。
- 3) ボルト[o]を六角レンチとソケットレンチなどでゆるめて、ボディ(上)[a2]と(下)[a1]を取り外します。
- 4) 圧縮バネ[h]とスプリングプレート[f]を取り外します。
- 5) ボルト[k]を六角レンチでゆるめ、コンプレッサー[g]とダイヤフラム[c]を取り外します。
- 6) ボディ(上)[a2]の下部よりピストン[d]を引き抜き取り外します。

組立手順

- 1) 分解手順の逆の順序で組立を行います。(組立前に O リング類にシリコングリスを塗布してください)
- 2) 組立後は、「9.作動圧力の調整方法」にしたがって作動圧力を調整してください。

ボディ、ハウジングの締付トルク値

単位: N・m {kgf・cm}

呼び径	15mm	20、25mm	32、40mm	50mm
トルク値	9 {92}	12 {122}	15 {153}	29 {296}

リリーフタイプ(V185)、背圧タイプ(V186)分解手順

- 1) ハウジング[b]上部のキャップ[i]を取り外します。
- 2) ロックナット[i]をスパナでゆるめ、調整ネジ[j]を六角レンチで十分にゆるめておきます。
- 3) ボルトの保護キャップ(15mm～32mm)を取り外して、ボルト[o]を六角レンチとソケットレンチなどでゆるめて取り外します。
- 4) ボルト[o]を取り外すと分解されますので、圧縮バネ[h]とスプリングプレート[f]及びコンプレッサー[g]を取り外します。
- 5) ダイヤフラム[c]をボディ[a]から取り外します。

組立手順

- 1) 分解手順の逆の順序で組立を行います。(組立前に O リング類にシリコングリスを塗布してください)
- 2) 組立後は、「9.作動圧力の調整方法」にしたがって作動圧力を調整してください。

ボディ、ハウジングの締付トルク値

単位: N・m {kgf・cm}

呼び径	15、20mm	25、32mm	40、50mm
トルク値	9 {92}	12 {122}	20 {204}

11. 点検項目



注意



・定期的なメンテナンスを行ってください。(長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化により、漏れが発生する場合があります)

○下記の項目にて点検を行ってください。

(1)	外観にキズ、ワレ、変形はないか
(2)	外部への漏れはないか
(3)	締結ボルトナット、及びロックナットのゆるみはないか
(4)	キャップナットはゆるんでないか
(5)	調整ネジの操作はスムーズに行えるか

12. 不具合の原因と処置方法

状態	原因	処置方法
ボディとハウジング部から漏れる	締結ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	ダイヤフラム、Oリング(A)(B)のキズ付き、磨耗、またはへたり	部品の交換
キャップナット部から漏れる	キャップナットのゆるみ	キャップナットの増し締め
	Oリング(C)のキズ付き、またはへたり	部品の交換
調整ネジ部から漏れる	ダイヤフラムの破れ	部品の交換
	Oリング(B)のキズ付き、磨耗、またはへたり	部品の交換
圧力が設定値以下になる	ピストンベース、リングシールのキズ付き、または磨耗による作動不良	部品の交換
	弁座やダイヤフラムのキズ付きによる作動不良	部品または製品の交換

- 安定して性能を発揮させるため、定期的に消耗部品を交換することをお勧めします。
消耗部品のリストを以下に記載しますので、必要の際にはご用命ください。

品種	セット名	部品名
減圧タイプ	V182	調整キット ・調整ネジ[j] ・スプリングプレート[f] ・圧縮バネ[h] ・スプリングサポートプレート[p] ・ピストン[d] + ピストンベース[e]
	V82	
	V182	シーリングキット ・Oリング(A)[n1] ・Oリング(B)[n2] ・リングシール[m] ・ダイヤフラム[c] ・Oリング(A)[n1] ・リングシール[m]
	V82	
リリーフタイプ／背圧タイプ※1	スペアパーツ	・調整ネジ[j] ・ダイヤフラム[c] ・圧縮バネ[h]
共通※2	Oリング	・Oリング(C)[5]
	ボディキャップ／ナット	・ボディキャップ[3] ・キャップナット[4] ・ストップリング[6](フランジ形の時のみ)

※1. リリーフタイプと背圧タイプは同じ部品を使用します。

※2. 減圧タイプ、リリーフタイプ、背圧タイプ共通の部品になります。

13. 残材・廃材の処理方法



・廃棄される場合は、各自治体の指針にしたがい、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。
(燃やすと有毒ガスが発生します)

自力式弁
減圧タイプ / リリーフタイプ / 背圧タイプ
(15mm～50mm)

旭有機材株式会社



旭有機材ホームページ <http://www.asahi-yukizai.co.jp/>